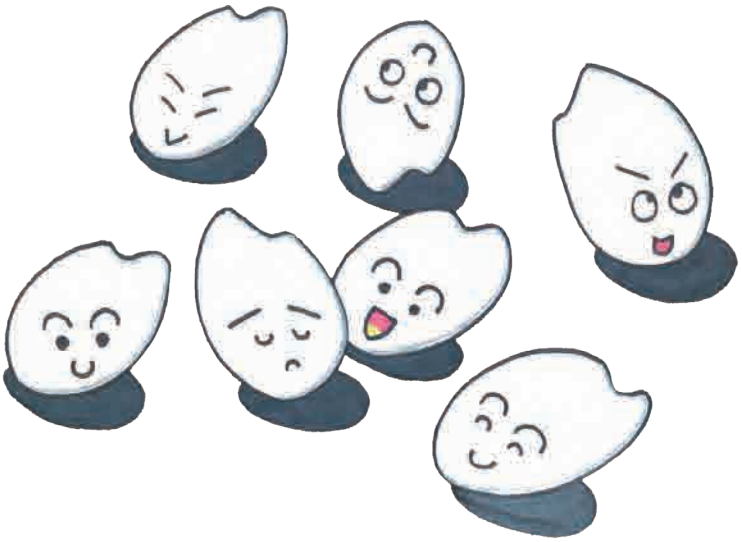
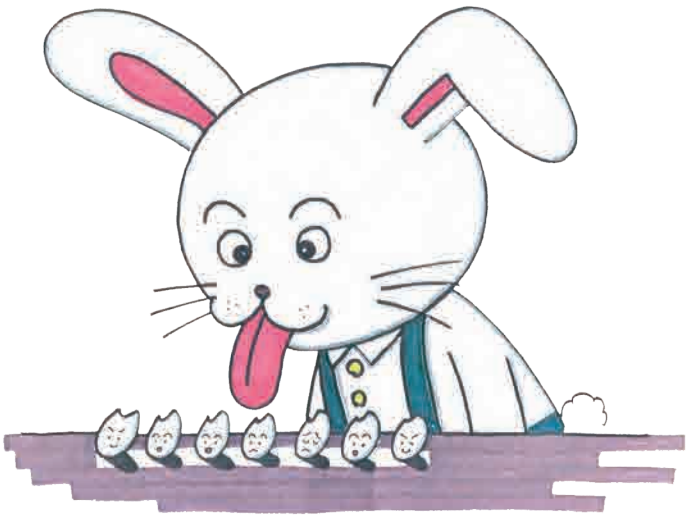
目　次

1　はじめのうた
2　季節のカード（草木編）
3　童　　謡　　浦島太郎
4　早口ことば　　生米七粒並べてなめた
5　今月の詩　　待ちぼうけ　　北原白秋
6　た し 算　　順番足し算
7　ことわざ　　ちりも積もれば山となる　釣り落とした魚は大きい
　　出るくいは打たれる　鉄は熱いうちに打て
　　天災は忘れた頃にやってくる
8　う　　た　　わけっこのうた
9　俳　　句　　野沢凡兆　上島鬼貫　松尾芭蕉
10　かぞえうた　　１枚　１房　１張　（おりがみ、バナナ、すだれ）
11　なぞなぞ
12　手あそびうた　ごんべさんの赤ちゃん
13　今月のうた　　文化の歴史
14　四字熟語　　初志貫徹　　神出鬼没　　針小棒大
15　イメージトレーニング　　クロス君（第11話　ムー大陸）
　　（イメージしてみましょう）
16　おはなし　　はだかの王様
17　漢　　詩　　磧中の作
18　百人一首　　大納言経信　赤染衛門　山部赤人　河原左大臣
19　復習コーナー
20　暗　　示　　（静かなところで目を閉じて聞きましょう）

早口ことば

なまごめななつぶなら
生米七粒並べてなめた





待ちぼうけ

北原白秋

待ちぼうけ、待ちぼうけ。
　ある日、せっせと、野良かせぎ、
　そこへ兎が飛んで出て、
　ころり、ころげた、木のねっこ。

待ちぼうけ、待ちぼうけ。
　しめた、これから寝て待とうか、
　待てば獲ものは駈けて来る。
　兎ぶつかれ、木のねっこ。

待ちぼうけ、待ちぼうけ。
　昨日鍬とり、畑仕事、
　今日は頬づえ、日向ぼこ。
　うまい伐り株、木のねっこ。

待ちぼうけ、待ちぼうけ。
　今日は今日はで待ちぼうけ、
　明日は明日はで森のそと、
　兎待ち待ち、木のねっこ。

待ちぼうけ、待ちぼうけ。
　もとは涼しい黍畑、
　いまは荒野の箒草、
　寒い北風、木のねっこ。

ことわざ

ちりも積もれば山となる

わずかなものでもたくさん積み重なると、ついには高大なものとなる。

釣り落とした魚は大きい

手に入れそこなったものは実際よりも立派に思われ、惜しく感じるものだ。

出る杭は打たれる

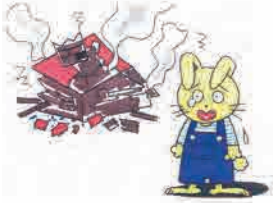
他より優れている人、目立つ人、出しゃばる人は、憎まれたりじゃまをされたりする。

鉄は熱いうちに打て

人間は若いうちに鍛えておくことが大切である。何事にも時期を逃してはならない。

天災は忘れたころにやってくる

災害はその恐ろしさを忘れた頃に再び起こるので、普段から用心して備えておかなくてはいけない。



俳　句

下京(しもぎょう)や　雪積(ゆきつ)む上(うえ)の　夜(よる)の雨(あめ)

野沢凡兆(のざわぼんちょう)

冬枯(ふゆがれ)や　平等院(びょうどういん)の　庭(にわ)の面(おも)

上島鬼貫(うえしまおにつら)

海暮(うみく)れて　鴨(かも)の声(こえ)　ほのかに白(しろ)し

松尾芭蕉(まつおばしょう)

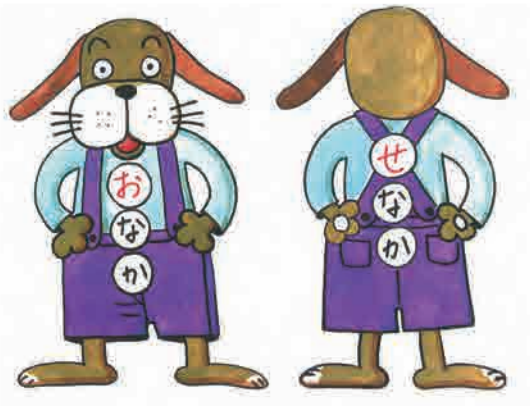
なぞなぞ

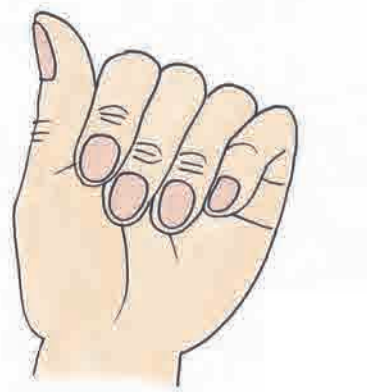
1　身体の前と後ろで一字だけ言い方がちがうところはなあに？

2　笑うときにはかかえるが、怒ったときには立つものなあに？

3　起きているときははなればなれ、眠くなるとくっついてしまうものなあに？

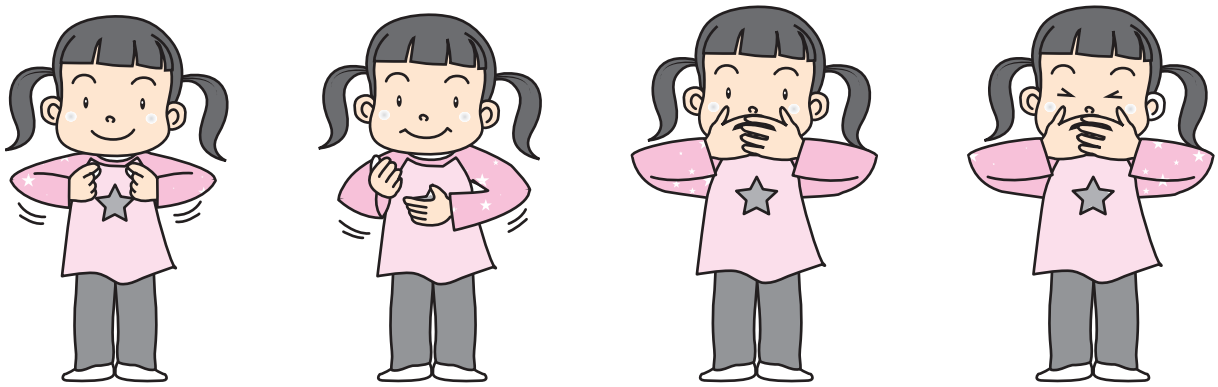
4　手についているめはなあに？





《ごんべさんの赤(あか)ちゃん》

① ごんべさんの　② あかちゃんが　③ かぜひいた　④ ハクション



りょう手(て)でほっかむりをする

あかちゃんをだっこする

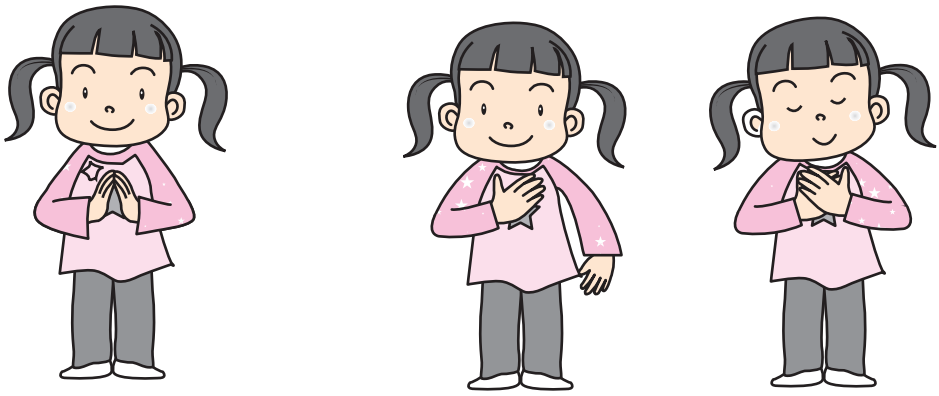
くちをおさえる

くしゃみをする

⑤ ごんべさんのあかちゃんがかぜひいた　ハクション
ごんべさんのあかちゃんがかぜひいた　ハクション

①〜④を２かい、くりかえす

⑥ そこであわてて　⑦ しっぷ　⑧ した



手(て)を４かいたたく

かた手(て)ずつ、むねに手(て)をあてる

今月のうた

《文化の歴史》

日本の文化の歴史をみてみよう
飛鳥時代は　飛鳥文化　白鳳文化
奈良時代の　天平文化
平安時代は　弘仁・貞観　国風文化
鎌倉時代は　鎌倉文化
室町時代は　北山文化　東山文化
安土桃山　桃山文化　南蛮文化
江戸時代は　元禄文化　化政文化
それぞれの時代が　よくわかる

南蛮文化

初志貫徹（しょしかんてつ）

最初の志（こころざし）を貫（つらぬ）き通（とお）すこと。

神出鬼没（しんしゅつきぼつ）

またたく間（ま）に現（あらわ）れたり隠（かく）れたりすること。

針小棒大（しんしょうぼうだい）

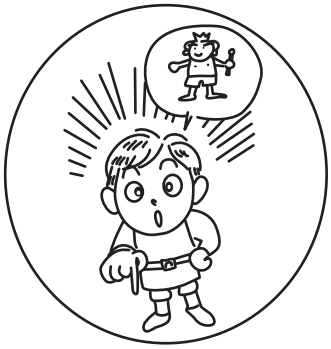
小（ちい）さいことを大（おお）げさに言（い）うこと。

おはなし

はだかの王様

「はだかの王様」は、機織りにだまされたみえっぱりの王様のお話です。
お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

1　王様は、何が大好きなのですか。
2　そのため、家来たちはどうしましたか。
3　家来は、どういう着物をおる人を、お城に連れてきましたか。
4　まわりの人たちは、どうして見えない物を見えるといったのですか。
5　「王様は、裸だよ。」という男の子の声で大人たちはどう思いましたか。



磧中の作

岑　参

馬を走らせて
西来　天に到らんと欲す
家を辞してより
月の両回円かなるを見る
今夜は知らず
何れの処にか宿するを
平沙万里　人烟絶つ

百人一首

夕されば
門田の稲葉
おとづれて
蘆のまろ屋に
秋風ぞ吹く

（大納言経信）

やすらはで
寝なましものを
さ夜更けて
傾くまでの
月を見しかな

（赤染衛門）

田子の浦に
うち出でて見れば
白妙の
富士の高嶺に
雪は降りつつ

（山部赤人）

陸奥の
しのぶもぢずり
誰ゆゑに
乱れそめにし
我ならなくに

（河原左大臣）

赤染衛門